様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：３３９０６
研究種目：若手研究(A)
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｈ０４７６７

研究課題名（和文）人と動物の共存の文化的基盤にもとづくアフリカ大型類人猿の保全と地域開発の統合

研究課題名（英文）Integration of conservation of African Great Apes and local development based on the culture of human-animal coexistence

研究代表者
松浦　直毅（Matsuura, Naoki）

椙山女学園大学・人間関係学部・准教授

研究者番号：６０５２７８９４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　17,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アフリカ大型類人猿の重要な生息地であるとともに、長期野外研究の拠点でもあるアフリカ中部の三つの自然保護区（ガボン：ムカラバ・ドゥドゥ国立公園、コンゴ民主共和国：ルオー学術保護区、タンザニア：マハレ山塊国立公園）を対象に人類学的調査をおこない、地域住民と類人猿の共存を支える文化的基盤、研究が地域にもたらす影響、保全と開発に関わる諸アクターの関係をそれぞれ明らかにした。その結果をもとに、類人猿の研究と保全が統合的に発展し、将来にわたって地域の持続的開発にも資する保護区運営システムを考案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、アフリカ大型類人猿の長期野外研究拠点において、これまで十分に顧みられてこなかった地域の歴史、文化、社会関係を明らかにした点、研究者と地域社会の関わりや、保全と開発に関わるアクターの役割を検証した点、それらをもとに有効で持続的な保護区運営システムを考案した点で意義が大きい。本研究の成果は、さまざまな保護区で参照・適用されることが望まれるものであり、多くの地域で生じている保全と開発をめぐる対立を解消するための方策を提示するものとして期待される。

研究成果の概要（英文）：This study conducted anthropological research in three protected areas of Africa (Moukalaba-Doudou National Park in Gabon; Luo Scientific Reserve in DRC, and Mahale Mountains National Park in Tanzania), which are important habitats for African great apes and also serve as bases for long-term field research. The study revealed the cultural basis for the coexistence of great apes and local people, the influence of research activities on the local communities, and the relationship between actors concerning conservation and development practices. Based on the results, the study discussed a effective protected area management system that integrates great ape research and conservation and contributes the sustainable local development in the area.

研究分野：人類学

キーワード：アフリカ大型類人猿　生物多様性保全　持続可能な開発　住民参加

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

アフリカ熱帯林とそこにすむ野生動物は急激に減少しており、なかでも繁殖率が低く世代サイクルが長い大型類人猿は、生息地破壊による個体数減少からの回復が遅く、とくに脆弱である。絶滅の危機にある類人猿を保全するためには、生息国の政治的な安定と持続的な社会経済開発を推進するための支援が不可欠であり、地域社会に対する深い理解にもとづく住民参加型の保全体制の整備が欠かせない。しかしながら、参加型の保全と開発の主体となるべき生息地の住民の存在は、十分に顧みられているとはいいがたい。保全政策は住民の生活実態を考慮することなく決定され、利益還元や補償は十分ではなく、長きにわたって住民が培ってきた類人猿との共存の文化的基盤は捨象されてきた。地域住民と類人猿の共存を支える文化的基盤を解明し、地域に根ざしたボトムアップの視点から、類人猿の研究と保全の統合的発展を支え、有効で持続的な保護区運営システムを構築することが求められている。

このような状況を打破するために報告者は、アフリカ大型類人猿の長期野外研究拠点であるガボンのムカラバ・ドゥドゥ国立公園と、コンゴ民主共和国 (DRC) のルオー学術保護区のふたつの自然保護区において、地域の歴史文化および地域コミュニティの動態に関する研究を実施してきた。これまでの研究より、以下の 3 点が明らかになっている。(1) ふたつの保護区は、生態環境や保全上の位置づけが類似している一方で、文化的特徴は大きく異なっており、そうした文化多様性を考慮した保護区運営が求められる。(2) どちらの保護区も外部者をふくめた多様なアクターが複雑に関わっていることから、住民参加を推進するだけでなく、アクター同士が関係を結び、それぞれに役割を果たすことができるような仕組みが必要である。(3) 長期研究によって構築される地域住民との協力関係が保全と開発を推進するうえでも重要な基盤になるが、経済的利益や、研究活動を通じて蓄積された地域社会に関する知識や情報が、保全と開発の実践にかならずしも十分に生かされていない。

２．研究の目的

以上の背景をふまえて本研究では、アフリカ大型類人猿の重要な生息地であるとともに、長期野外研究の拠点でもあるアフリカ中部の自然保護区において調査を実施する。これまでに調査を継続してきたガボンのムカラバ・ドゥドゥ国立公園、DRC のルオー学術保護区にくわえて、チンパンジーの長期研究拠点であるタンザニアのマハレ山塊国立公園を対象として、以下の三つの課題に取り組む。(1) 地域社会の歴史背景および文化的特徴に関する人類学的調査をおこない、地域住民と類人猿の共存を支える文化的基盤を解明する。(2) 研究活動／研究者と地域社会の関係についての民族誌的調査をおこない、研究が地域にもたらす影響を明らかにする。(3) 保全と開発に関わる諸アクターの役割およびアクター間の関係についての調査をおこない、保全と開発の統合のあり方を検討する。以上を通じて、地域に根ざした視点から、類人猿の研究と保全が統合的に発展し、将来にわたって地域の持続的開発にも資するような新たな保護区運営システムを提案することを目的とする。

３．研究の方法

ガボン、コンゴ民主共和国、タンザニアの三つのアフリカ大型類人猿の長期野外研究拠点を調査地として、人類学的調査をおこなう。まず、大型類人猿保全、アフリカ熱帯林地域の歴史文化、保全と住民の関係に関する文献を収集・分析し、それぞれの調査においてこれまでに集めたデータや情報について、本研究に関連するものを整理して調査の課題を抽出する。

そのあと、それぞれの調査地において 1～2 カ月程度の現地調査をおこなう。ムカラバ・ドゥドゥ国立公園（ガボン）では、これまでおこなってきた自然資源利用や獣害に関する研究を継続発展させるとともに、ゴリラと住民の関係についての聞きとり調査および、土地利用に関する地理データの収集をおこなう。ルオー学術保護区（コンゴ民主共和国）では、これまでおこなってきた住民組織の研究を継続発展させるとともに、ガボンでの調査と同様の方法で、ボノボと住民の関係についての聞きとり調査をおこなう。マハレ山塊国立公園（タンザニア）では、生計経済と資源利用、親族構造と社会関係、動物認識のそれぞれに関する基礎調査をおこない、地域の文化的特徴を把握したうえで、チンパンジーと住民の関係についての聞きとり調査を実施する。

つぎに、現地での調査と関連する研究者に対する聞き取りから、研究活動が地域の社会経済に与える影響を明らかにする。さらに、現地調査と文献研究によって、各調査地の保全と開発に関わる諸アクターの役割や関係性について調べる。

４．研究成果

三つの自然保護区において、地域住民と類人猿の共存を支える文化的基盤、研究が地域にもたらす影響、保全と開発に関わる諸アクターの関係がそれぞれ明らかになり、いずれの地域にも共通している点と、地域ごとに異なる点が見出された。また、その結果をもとに、類人猿の研究と保全が統合的に発展し、将来にわたって地域の持続的開発にも資する保護区運営システムを提案した。従来のように「研究」と「実践」を分けるのではなく、両者が一体となって発展するた

めの仕組みを取り入れ、関係する諸アクターが有機的に連携・協力することの必要性を指摘した。以上の成果は、学術論文 3 編、分担執筆 2 本、編著 1 冊などにまとめられた。

新型コロナウイルス感染拡大のため、2020 年度と 2021 年度は渡航中止を余儀なくされ、現地での活動をともなう研究の計画を延期せざるをえなくなったが、2022 年度に渡航を再開することができ、当初の計画からは 2 年遅れることとなったが計画を完遂することができた。

本研究は、アフリカ大型類人猿の長期野外研究拠点において、これまで十分に顧みられてこなかった地域の歴史、文化、社会関係を明らかにした点、研究者と地域社会の関わりや保全と開発に関わるアクターの役割を検証した点、それらをもとに有効で持続的な保護区運営システムを考案した点で意義が大きい。本研究の成果は、さまざまな保護区で参照・適用されることが望まれるものであり、多くの地域で生じている保全と開発をめぐる対立を解消するための方策を提示するものとして期待される。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 山口亮太・松浦直毅	４．巻 25
２．論文標題 水運復興に向けた住民組織の取り組みと課題：コンゴ民主共和国における水上輸送プロジェクトのその後の展開	５．発行年 2019年
３．雑誌名 生態人類学会ニュースレター	６．最初と最後の頁 23-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Naoki Matsuura	４．巻 12(2)
２．論文標題 Community-based ecotourism in Gabon, central Africa	５．発行年 2019年
３．雑誌名 global-e (UC Santa Barbara)	６．最初と最後の頁 Jan 17, 2019
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 松浦直毅・安藤智恵子・新谷雅徳・竹ノ下祐二	４．巻 92
２．論文標題 科学研究プロジェクトと地域社会を架橋するエコツーリズム―ガボン、ムカラバ・ドゥドゥ国立公園における取り組み	５．発行年 2017年
３．雑誌名 アフリカ研究	６．最初と最後の頁 109-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Terada Saeko、Yobo Christian Mikolo、Moussavou Guy-Max、Matsuura Naoki	４．巻 14
２．論文標題 Human-Elephant Conflict Around Moukalaba-Doudou National Park in Gabon: Socioeconomic Changes and Effects of Conservation Projects on Local Tolerance	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Tropical Conservation Science	６．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/19400829211026775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 松浦直毅・戸田美佳子・安岡宏和	４．巻 100
２．論文標題 アフリカの生物多様性保全をめぐる歴史と現代的課題	５．発行年 2021年
３．雑誌名 アフリカ研究	６．最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11619/africa.2021.100_29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計13件（うち招待講演　1件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 山口亮太・松浦直毅
２．発表標題 蒸留酒と鱗翅目幼虫の経済的ポテンシャル：コンゴ民主共和国熱帯林における地域特産品の商品化と流通をめぐって
３．学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 松浦直毅・山口亮太
２．発表標題 研究－開発－保全の統合的発展は可能か？コンゴ民主共和国における水上輸 送プロジェクトの実践
３．学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Matsuura, N
２．発表標題 Integration de developpement et conservation a travers des activites de recherche en RDC
３．学会等名 Conference de Recherches sur le site de Djolu dans la Province de la Tshuapa (at Kisangani University, DRC)
４．発表年 2019年

１．発表者名 Naoki Matsuura, Ryota Yamaguchi, Shingo Takamura
２．発表標題 Local associations, economic development, and river trade in Thuapa Province, DRC
３．学会等名 CRN (Congo Research Networks) Conference 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 松浦直毅・山口亮太・高村伸吾
２．発表標題 保全と開発の統合に向けた住民組織のエンパワーメント：コンゴ民主共和国における水上輸送支援プロジェクトの実践
３．学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 山口亮太・松浦直毅
２．発表標題 熱帯森林資源の商品化と流通：コンゴ民主共和国における水上輸送支援プロジェクトの実践
３．学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Naoki Matsuura
２．発表標題 Flexible adaptation or forced inclusion? Relationships with outside actors of central African hunter-gatherers
３．学会等名 12th International Conference on Hunting and Gatherer Societies (CHAGS12)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山口亮太・松浦直毅
２．発表標題 水運復興に向けた住民組織の取り組みと課題：コンゴ民主共和国における水上輸送プロジェクトのその後の展開
３．学会等名 生態人類学会第24回研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 松浦直毅・木村大治・岡本妃花理・村山美穂
２．発表標題 新規家畜の導入が住民生活にもたらす効果－ガーナにおけるグラスカッター飼育プロジェクトより
３．学会等名 日本アフリカ学会第54回学術大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 松浦直毅
２．発表標題 長期研究プロジェクトにおける／に関する／を通じた研究と実践―アフリカの類人猿調査地における人類学的フィールドワーク
３．学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・フィールドサイエンスコロキアム第2回ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 松浦直毅・山口亮太・高村伸吾
２．発表標題 森と河をつなぐ：コンゴ民主共和国における水上輸送プロジェクトを通じた研究と支援
３．学会等名 生態人類学会第23回研究大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 寺田佐恵子・松浦直毅
２．発表標題 ガボン共和国ムカラバ・ドゥドゥ国立公園周辺地域における地域住民の野生動物保全に対する認識：アフリカゾウによる被害と国立公園からの利益の影響
３．学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 野本繭子・寺田佐恵子・松浦直毅
２．発表標題 ガボン共和国ムカラバ・ドゥドゥ国立公園周辺地域におけるマルミミゾウの作物被害による住民の暮らしの変化
３．学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計3件

１．著者名 松浦直毅、山口亮太、高村伸吾、木村大治	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 280
３．書名 コンゴ・森と河をつなぐ―コンゴの地域住民とめざす開発と保全の両立	

１．著者名 湖中真哉、太田至、孫暁剛	４．発行年 2018年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 320
３．書名 地域研究からみた人道支援：アフリカ　遊牧民の現場から	

１．著者名 阿部健一、柳澤雅之	４．発行年 2021年
２．出版社 京都大学学術出版会	５．総ページ数 296
３．書名 No Life, No Forest: 熱帯林の「価値命題」を暮らしから問う	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ガボン	熱帯生態研究所	人文科学研究所		
コンゴ民主共和国	森林生態研究所			